

小学校国際交流支援プロジェクト ～小学校の国際交流支援「テディベアプロジェクト (TBP)」～

団体名●清水ゼミナール3年／代表者名●清水和久（人間科学部こども学科・教授）

はじめに(背景・目的・目標)

清水ゼミでは日本の小学校と台湾の小学校との国際交流の支援を毎年行っている。この活動の背景としては2点ある。1点目として、「小学校の外国語科の始まりで、学んだ英語を必然性のある場面で使う機会が必要である点、2点目は、また探求的に取り組む活動として、知りたい、行動したいという思いを実現する機会が必要である点である。小学校の先生が直接海外の小学校とつながる機会はなかなかなく、またそのための打ち合わせも煩雑になるため、大学側がこれまでも支援を行って来た。

この交流プロジェクトの目的は、同世代の小学生同士が外国の同世代の子供と交流することで、異文化理解の原体験を持たせることである。

その為に目標①としては、「英語の自己紹介のカードを交流相手校に送るとともに相手からももらい内容を理解できること」、目標②として交流校とWEB会議を行い視覚と聴覚を活用して相手のことを理解するとともに自分のことを発信できること。さらに目標③として、総合的な学習の時間で自分たちの代表であるぬいぐるみのベアを通して日本人としてのアイデンティティを考えるとともに、台湾からやって来たベアと共に生活する中で日本の文化や生活様式を発しできることである。

日本のTBP参加数は5校14クラス、(内金沢市は3校8クラス)交流校の台湾は4校14クラス。

表1.2023年度TBP参加校と交流校一覧

○金沢市
・金沢市四十万小6年(3) — 嘉儀市宣信小5年(3)
・金沢市長田町小6年(2) — 嘉儀市精忠小5年(2)
・金沢市千坂小5年(3) — 台北市五常小5年(3)
○その他の都市
・野々市市館野小6年(2) — 台北市五常小6年(2)
・羽咋市羽咋小6年(2) — 高雄市新甲小5年(2)
・黒部市中央小1年(2) — 嘉儀市精忠小2年(2)

活動内容

1)打合せの会議の実施

6月から活動を開始。参加の日本の先生方と星稜大学の清水ゼミで月1回程度のzoom会議を開催。初めて海外と国際交流を行う先生方に支援を行った。全部で7回のWEB会議を行った。以下が実施した会議の日時と内容である。

第1回：6月26日(月) 16:00

・キックオフ会

日本から参加する先生同士の顔あわせ、これからのスケジュール確認、学生の100人村ワークショップの説明をおこなった。

第2回：8月28日(月) 15:00

・2学期以降の見通し

9月発送の留学生のぬいぐるみの送付準備についての説明とこれからの見通しについて話し合った。清水ゼミ3年生は9月から1か月間は教育実習で国際交流の支援はできないため、教育実習前に打ち合わせを行った。9月には、まず日本からぬいぐるみ留学生を送る。送る前には、日本人のアイデンティティについて話し合いを行い、名前や、服装などを決めたいで送ることを確認。

第3回：10月2日(月) 16:00

・台湾から送られてきたぬいぐるみとの活動

台湾は9月が新年度の始まりであり、日本が先にぬいぐるみを送ったあと、台湾からも同様にぬいぐるみがやってくることになる。このやって来たぬいぐるみをクラスメイトとして迎え、自分たちのクラスの活動を一緒に行う。

第4回：11月6日(月) 16:00

・第1回目のWEB会議の段取り

11月中にクラス同士のWEB会議を行う。クラスによってはクラス全体対全体のところもあるが、zoomのブレイクアウト機能を使うことでグループ対グループのより少人数での話し合いが可能となる。

しかし、その場合は先生が目が届かないので、清水ゼミの学生が各グループに遠隔で入り、サポートを行うことの確認をした。

第5回：12月4日(月) 16:00

WEB 会議を先に行った学校の様子を共有し、また行っていない学校の参考とした。

また、清水ゼミの学生は12月に大学のエリアスタディ・アドバンスドの制度を使い、台湾の交流校を訪問する。そのために日本の小学生にも参加感を高めてもらうために、「台湾ミッション」という形で大学生に見てきてほしいことや、やってきてほしいことを募集した。

第6回：1月22日(月) 16:00

小学校に出かけての台湾の報告会の打ち合わせ。清水ゼミの学生が台湾の交流校を訪問した時の報告を行った。日本の子供たちから託されたニューイヤーカーカードを相手校に渡し、金沢紹介などを行ったことを報告。2月にかけて日本の各小学校を訪問し台湾の小学校の様子を伝える予定。

第7回：2月26日(月) 16:00

活動のまとめ

- ・6月から始まったプロジェクトの報告書を各小学校の先生に記載してもらい、その報告書をもとに、活動のまとめをおこなう。

2) WEB 会議の実施



写真1 千坂小と五常小とのzoom会議の様子

千坂小学校の5年生は、加賀レンコンの紹介を行った。(左の写真)右の写真が聞いている台湾の五常小学校5年生。手前には千坂小学校から「留学」したベアが座っている。

一方台湾の小学生は、蛍について発表した。台湾の五常小学校では環境教育に力を入れており、その一環として蛍の習性について調べ発表を行った。

五常小では蛍の生態を通して光害により繁殖が難しくなっていることなどを3択のクイズで紹介してくれた。すべて英語であったが選択問題だったので



写真2 台湾五常小学校の蛍クイズ発表画面

答えやすかったようである。

四十万小学校は、クラスを2つに分けて WEB 会議を実施、長田町小学校はクラスを5つに分けて実施した。

まとめ

○成果(参加した小学校からの感想)

- ・他国の同年代の子どもとつながっていく、というだけで子ども達の意欲は高まり、実りのある学習になっていた。特にテレビ会議では、終始笑顔を見せており、とても魅力的な学習になっていた。
- ・英語科で学んできたことをもとに、表現を工夫する学習ができたことがよかった。相手意識も明確にあり、良き学びの場となっていた。
- ・学級、学年、学校の範囲から出ること、児童の「伝えよう」という目的意識や意欲が高まった。
- ・英語を学習する良さを実感できる場となった
- ・言語の壁がある分、どうすれば伝わるかをより強く意識していた。

○課題(参加した小学校からの感想)

- ・教師間の調整が非常に難しい。どんな内容で、どの程度のことをするのか、直前までわからなかった。また、学級担任がすべてを担っている日本の教育システムと、そうではない相手国との差を感じた。

○支援の立場から

- ・国際交流は「器」であり、そこに何を盛るかは教師の意識にかかっている。児童の反応はととてもよく、相手意識、目的意識を持たせることができていた。今後学級担任との思いをもっと合わせて行きたい。